



2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月12日

上場会社名 東京汽船株式会社

上場取引所 東

コード番号 9193 URL <http://www.tokyokisen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齊藤 宏之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 佐藤 晃司

TEL 045-671-7713

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	4,664	22.7	372		212		143	
2020年3月期第2四半期	6,037	6.2	188	66.0	395	47.9	180	69.4

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 69百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 149百万円 (79.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	14.40	
2020年3月期第2四半期	18.10	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	26,515	20,940	75.6
2020年3月期	26,696	21,211	76.1

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 20,040百万円 2020年3月期 20,318百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期				20.00	20.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,689	18.1	708		502		274		27.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	10,010,000 株	2020年3月期	10,010,000 株
期末自己株式数	2021年3月期2Q	62,982 株	2020年3月期	62,982 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	9,947,018 株	2020年3月期2Q	9,947,115 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、米中の貿易摩擦の悪影響と新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が重なり、第1四半期は大きく落ち込んだものの、7月以降中国や北米向けの輸出には底打ち感が見られました。一方、航空・運輸・観光業や飲食業界においては深刻な事態が続いております。また、企業の設備投資は、感染症の先行き不透明な状況下で慎重な姿勢が見られ、個人消費は、政府による需要喚起策が実施されたものの、雇用情勢の悪化に歯止めがかからず低調となりました。

当社グループの主たる事業である曳船事業を取り巻く状況につきましては、新型コロナウイルス感染症が海上物流に与える悪影響は4月に入り始め、第2四半期に入ってから東京湾への入出港船舶数の減少傾向は続いております。また、旅客船事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏場の需要期も客足が伸びず、9月に入り「GO TO キャンペーン」の効果が出始めましたが、第1四半期の大幅な減収をカバーするまでには至りませんでした。

このようなコロナ禍での未曾有の経営環境のなかで、当社グループ全体の売上高は1,372百万円減少し4,664百万円（前年同期比22.7%減）と大幅な減収となりました。

利益面では、世界的な景気減速を受け原油価格は低水準で推移し、燃料費は184百万円減少しましたが、大幅な減収により372百万円の営業損失（前年同期は188百万円の営業利益）、212百万円の経常損失（前年同期は395百万円の経常利益）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産売却益（曳船売却益）が発生しましたが、旅客船事業で臨時休業等による損失が発生し、143百万円の四半期純損失（前年同期は180百万円の四半期純利益）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりです。

曳船事業

曳船事業は、横浜川崎地区では、作業対象船舶のうちコンテナ船の底打ち感が見られているものの、自動車専用船、大型タンカーや客船を中心にほぼすべての船種の入出港船舶数が減少し減収となりました。東京地区では、作業対象船舶がコンテナ船中心であることから入出港数は微減に留まり、ほぼ前年同期並みの水準を維持できました。横須賀地区では、コンテナ船、危険物積載船や鉱石船の入出港数が減少し、エスコート作業や東京湾口水先艇の乗下船作業が減少し大幅な減収となりました。千葉地区では、プロダクトタンカーが増加しましたが、LNG船等の危険物積載船が減少し減収となりました。

この結果、曳船事業セグメントの売上高は502百万円減少し3,877百万円（前年同期比11.5%減）となり、燃料費は減少したものの大幅な減収が響き13百万円の営業損失（前年同期は232百万円の営業利益）となりました。

旅客船事業

旅客船事業は、横浜港における観光船部門では、新型コロナウイルス感染症の蔓延を回避するため4月から観光船全船を運休しておりましたが、一部を除き5月25日から運航再開となりました。夏場の需要期は、船内での感染リスク懸念から客足は伸びず、9月に入り政府による「GO TO キャンペーン」の効果が出始めたものの、観光船利用客の本格的な回復までには至らず大幅な減収となりました。

久里浜・金谷間を結ぶカーフェリー部門では、4月に入りバスツアー団体客の利用がなくなり、さらに、ゴールデンウィーク期間中の運休やその後の減便での運航に加え、外出自粛要請から一般の利用客も大幅に減少し減収を余儀なくされました。

この結果、旅客船事業セグメントの売上高は 692 百万円減少し 632 百万円（前年同期比 52.3%減）となり、大幅な減収が響き 316 百万円の営業損失（前年同期は 25 百万円の営業損失）となりました。

売店・食堂事業

売店・食堂事業は、新型コロナウイルス感染症蔓延の原因とされる団体による旅行・飲食が敬遠される中、4月に入りカーフェリー部門同様にバスツアー団体客の利用が途絶え、旗艦店金谷センターだけでなく久里浜センターも大打撃を受けました。

この結果、売上高は 177 百万円減少し 154 百万円（前年同期比 53.4%減）となり、42 百万円の営業損失（前年同期は 19 百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ、181 百万円減少し 26,515 百万円となりました。

流動資産の部では、現金及び預金が積極的な設備投資を背景に 759 百万円減少し、さらに売掛金が 225 百万円減少し、その他流動資産が 31 百万円減少いたしました。

固定資産の部では、設備更新に加え新規投資案件により建設仮勘定が 755 百万円増加いたしました。

負債は、前連結会計年度末に比べ、89 百万円増加し 5,575 百万円となりました。流動負債の部では、支払手形及び買掛金が 192 百万円減少し、旅客船事業で大幅な減収により運転資金が不足し、新たに 300 百万円の銀行借入を行いました。固定負債の部では、長期借入金が 38 百万円増加し、特別修繕引当金が 52 百万円減少いたしました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ、271 百万円減少し 20,940 百万円となりました。これは主に 143 百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失と剰余金の配当を 198 百万円実施したことによるものです。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の 76.1%から 75.6%と 0.5 ポイント減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、曳船事業においては、欧米で新型コロナウイルス感染症の再拡大が顕著となってきており、今後さらに世界経済の縮小が懸念され海上輸送の先行きは低迷が継続する状況となっております。

旅客船事業においても、観光需要期である第2四半期に持ち直しが見られましたが、国内において新型コロナウイルス感染症の再拡大が懸念されるなか、本格的な回復まではかなりの時間を要するものと思われます。

連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症が国内外の経済に及ぼす影響額を合理的に予測することが困難であったため未定としておりましたが、最近の業況及び業績動向を踏まえ、2020年11月9日に「業績予想及び配当予想に関するお知らせ」を公表しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,184,879	10,425,248
売掛金	1,992,208	1,766,444
商品	19,468	15,167
貯蔵品	85,241	71,611
その他	364,798	333,388
貸倒引当金	△2,473	△2,654
流動資産合計	13,644,122	12,609,204
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	201,036	193,416
船舶（純額）	6,115,976	6,169,822
土地	1,257,341	1,257,341
その他（純額）	335,670	1,102,604
有形固定資産合計	7,910,025	8,723,185
無形固定資産		
	104,778	110,204
投資その他の資産		
投資有価証券	1,647,785	1,696,085
関係会社株式	2,741,500	2,762,152
繰延税金資産	280,857	223,085
その他	468,840	492,836
貸倒引当金	△100,945	△100,993
投資その他の資産合計	5,038,037	5,073,166
固定資産合計	13,052,841	13,906,556
資産合計	26,696,964	26,515,761

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	918,059	725,778
短期借入金	1,523,431	1,818,248
未払法人税等	103,071	47,667
役員賞与引当金	35,000	10,000
賞与引当金	210,255	204,204
その他	316,283	412,988
流動負債合計	3,106,101	3,218,885
固定負債		
長期借入金	217,492	255,868
役員退職慰労引当金	489,352	500,227
特別修繕引当金	431,254	378,441
退職給付に係る負債	937,616	951,309
繰延税金負債	133,273	130,691
その他	170,490	139,965
固定負債合計	2,379,479	2,356,503
負債合計	5,485,581	5,575,389
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,500	500,500
資本剰余金	75,357	75,357
利益剰余金	19,901,486	19,559,313
自己株式	△45,319	△45,319
株主資本合計	20,432,024	20,089,851
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73,040	110,457
繰延ヘッジ損益	△106,415	△78,110
為替換算調整勘定	△38,049	△55,387
退職給付に係る調整累計額	△42,286	△26,484
その他の包括利益累計額合計	△113,711	△49,525
非支配株主持分	893,070	900,045
純資産合計	21,211,383	20,940,371
負債純資産合計	26,696,964	26,515,761

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	6,037,115	4,664,218
売上原価	4,894,340	4,149,477
売上総利益	1,142,774	514,741
販売費及び一般管理費		
販売費	141,830	99,480
一般管理費	812,623	787,504
販売費及び一般管理費合計	954,454	886,984
営業利益又は営業損失(△)	188,320	△372,243
営業外収益		
受取利息	484	458
受取配当金	24,066	30,574
負ののれん償却額	2,373	—
持分法による投資利益	156,872	65,009
助成金収入	—	50,812
その他	34,310	27,046
営業外収益合計	218,107	173,901
営業外費用		
支払利息	9,471	9,885
その他	1,349	4,214
営業外費用合計	10,820	14,100
経常利益又は経常損失(△)	395,608	△212,442
特別利益		
固定資産売却益	91,383	174,963
受取保険金	20,000	—
特別利益合計	111,383	174,963
特別損失		
減損損失	214,278	—
災害による損失	29,611	—
臨時休業等による損失	—	23,291
特別損失合計	243,889	23,291
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前四半期純損失(△)	263,102	△60,770
法人税、住民税及び事業税	135,438	47,558
法人税等調整額	△12,551	25,211
法人税等合計	122,886	72,770
四半期純利益又は四半期純損失(△)	140,215	△133,540
非支配株主に帰属する四半期純利益 又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△39,829	9,691
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	180,044	△143,231

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	140,215	△133,540
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	46,693	37,385
繰延ヘッジ損益	△19,670	28,305
退職給付に係る調整額	11,632	15,802
持分法適用会社に対する持分相当額	△29,047	△17,338
その他の包括利益合計	9,608	64,155
四半期包括利益	149,823	△69,385
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	188,131	△79,046
非支配株主に係る四半期包括利益	△38,308	9,661

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	合計 (注)
	曳船事業	旅客船事業	売店・食堂事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,380,106	1,325,190	331,819	6,037,115	—	6,037,115
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,986	19,246	2,657	23,890	△23,890	—
計	4,382,092	1,344,436	334,476	6,061,005	△23,890	6,037,115
セグメント利益又は損失(△)	232,522	△25,092	△19,108	188,320	—	188,320

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	合計 (注)
	曳船事業	旅客船事業	売店・食堂事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,877,175	632,402	154,641	4,664,218	—	4,664,218
セグメント間の内部売上高 又は振替高	900	3,951	2,046	6,897	△6,897	—
計	3,878,075	636,354	156,687	4,671,116	△6,897	4,664,218
セグメント損失(△)	△13,603	△316,198	△42,441	△372,243	—	△372,243

(注) セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。